

中学校 情報モラル研修教材

牛久市立牛久南中学校

【ICT活用のねらい】

・Webページ、掲示板、チャット、電子メール、携帯電話、ネットオークション、ネットショッピングなど情報化社会の発達に伴い、その光と影の部分が大きな問題となっています。そこでインターネットで疑似体験のできるサイトを利用し、その体験から今後のこれらの使用方法について考えさせ、正しい知識を定着させるために文科省コンテンツを使用した。

【利用ICT機器・ソフトウェア】

- ・コンピュータ
- ・インターネット（情報モラル研修教材 <http://www.japet.jp/moral/>）
- ・文科省コンテンツ（電子問題集Web版インターネットの危険）

【ICTを活用した実践】

インターネット（情報モラル研修教材）の使用

情報化社会の発達に伴い、Webページ、掲示板、チャット、電子メール、携帯電話、ネットショッピングなどインターネット環境があれば誰もが簡単にこれらを使うことができるようになりました。そこで、これらのことについて疑似体験のできる情報モラル研修教材（<http://www.japet.jp/moral/>）を使用し授業を行いました。この情報モラル研修教材は生徒ひとりひとりがクリックをして進めていくことができ、疑似体験ではあるけれどもいろいろなトラブルに巻き込まれることで、インターネットの危険について考えることができます。

学習プリントの使用

情報モラル研修教材に合わせた学習プリントを用意し、生徒たちに携帯電話やネットショッピング、チャットなどの「便利な部分」「危険な部分」「これからどのように自分は使っていきたいか」などをまとめてもらい、自分のこととして考えられるようにしました。

文科省コンテンツ（電子問題集Web版インターネットの危険）の使用

インターネットの危険について疑似体験をした後、正しい知識を定着させるために、文科省コンテンツ（電子問題集Web版インターネットの危険）を使用しました。このコンテンツを使用するメリットは以下に示した通りです。

- ① 背景や画面の構成が1問ずつ問題に即しており、生徒がその場面にいるような感じで学習を進めることができる点。
- ② 自分のペースで学習を進めていくことができる点。

【ICTを活用した効果】

- ・コンピュータを使用することで、トラブルに巻き込まれる疑似体験ができ、何が危険でどういうことに気をつけたら良いのかを自分のこととして考えることができ、より身近な問題として捉えることができる。

【今後の課題】

今回は3年生で使用したが、1・2年生の早い段階で計画的にモラルの問題に取り組んでいくこと。



図1 情報モラル研修教材での疑似体験画面



図2 授業の様子